

眠れる森の妖精



——「ぎゃ〜カワイ〜」
秋が深まる山梨県北杜市清里
の高原で、記者、カメラマン
ら四人の男が「黄色い悲鳴？」
をあげた。オジさんの心を
奪ったのは、天然記念物の「ヤ
マネ」。森に住む夜行性の小動
物で体長は八センチ、体重は

二十グラムに満たない。ヤマ
ネの保護、研究活動に取り組
む「やまねミュージアム」の協
力で、飼育中のヤマネを特別
に撮影した。

撮影台の上のヤマネは起き
たばかり。丸いボールのよう
な姿から、もそもそと四肢を
伸ばしはじめ、目覚めるまで
の起動時間は実に十分強。
シャッターチャンスが多いの
はカメラマンとしてありがた
い限りだが、こんなに昏くて、
捕食者だらけの自然界で生き
延びられるのだろうか。

ヤマネは「冬眠鼠」とも書き、
その名の通り、約五年と言わ
れる寿命のほとんどを寝て過
ごす。すぐ見つけたりそうな落
ち葉の下でスヤスヤ寝ている
こともある。実はこの時、体
温がかなり低くなっているう
え、体臭もほとんどしないた
め発見はほぼ不可能という
いわば「土遁の術」だ。

肝が据わっているというか、
スキがありそうでないという
か……。生存のためのエネル
ギー消費を可能な限り抑えな
がら「ゆるゆる」だが「たくまし
く」生きるヤマネ。ミュージア
ム館長が「スロライフを体
現している生き物」と呼ぶゆえ
んだらう。「写真・文 小林健」

夜の紅葉沼に燃ゆると湯を落す…角川源義——鮮やかな赤にしばし寒さを忘れる